



<来週の資金需給予想とイベント予定>

(単位: 億円)

日付	資金需給予想			主な要因	オペ期日	オペスタート	イベント
	銀行券要因	財政等要因	資金過不足				
11/6 (月)	+ 400	▲ 27,900	▲ 27,500	国債発行 (10年) 国庫短期証券発行・償還 (3M)	国債補完供給 + 44,300		日: 日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月21・22日分)
11/7 (火)	+ 1,000	+ 1,000	+ 2,000				米: 貿易収支 (9月) 欧: ユーロ圏PPI (9月)
11/8 (水)	+ 1,000	▲ 3,000	▲ 2,000	国債発行 (物価連動10年)	共通担保 ▲ 7,100		日: 景気一致指数 (9月) 景気先行CI指数 (9月)
11/9 (木)	トン	▲ 1,000	▲ 1,000				日: 国際収支・経常収支 (9月) 貿易収支 (9月)
11/10 (金)	トン	▲ 18,000	▲ 18,000	国債発行 (30年) 国庫短期証券発行・償還 (6M)			米: 財政収支 (10月)

<インターバンク>

日銀当座預金残高は週初、前営業日対比1兆9,600億円増加の552兆3,600億円から始まった。その後は国債買入れオペや共通担保資金供給オペ等により増加傾向となり、週末となる2日には548兆9900億円 (速報) で越えた。

無担保コールON物加重平均金利は週初、▲0.016%から始まり、その後もビッドサイドの資金調達ニーズは底堅く、▲0.020%~▲0.016%の範囲で推移した。しかし、週末となる2日には4日積み要因からビッドサイドの資金調達ニーズが一層強まり、同加重平均金利は▲0.011%へ上昇した。

ターム物は1W~2W物を中心に、主に▲0.020%~▲0.010%のレンジで出が見られた。

なお国内では、日銀が30日・31日の金融政策決定会合において、YCCの運用のさらなる柔軟化を決定し、海外では31日・1日のFOMCにおいて政策金利の据え置きが決定された。

来週の予定は、国内では6日に日銀金融政策決定会合議事要旨 (9月21・22日分) の公表、海外では7日に9月の米貿易収支の公表などがある。

[無担保コールレート]

	予想レンジ (%)
O/N	▲0.087 ~ 0.001
1M	▲0.060 ~ 0.0100
2M	▲0.040 ~ 0.050
3M	0.000 ~ 0.130
6M	0.000 ~ 0.150

<レポ>

足許GCは月末過ぎとなる週初▲0.10%台半ばから出合い始め、▲0.30%台まで低下した。

政策決定会合の2日目となる31日は前場▲0.30%近辺で取引されたが、後場には▲0.10%台まで上昇した。

翌1日は▲0.10%台半ばが出合いの中心となり、3m短国の入札があった週末は▲0.15%近辺から始まり▲0.12%台まで上昇して取引を終えた。

SC取引は2年439~454回債、5年149~162回債、10年350~372回債、20年180~186回債、30年65~80回債、40年13~16回債などに引合いが多く見られた。

<CP>

今週の入札発行総額は約5,600億円で、週間償還額2,300億円を上回った。発行市場は石油等の一部業態で大型の発行が見られたものの、総じて案件は少なく落ち着いた展開であった。発行期間は、金融政策修正の警戒感等から期内物が中心であった。発行残高は先週末時点の26兆5,951億円から11月1日時点で26兆1,811億円に減少した。発行レートは、0%近辺から小幅なプラス圏での出合いが中心であった。

来週の償還額は約5,200億円となっている。発行市場は大口の償還も少なく落ち着いた展開を予想する。発行レートは期内物を中心に0%近辺での出合いが中心となるものの、期越えの案件についてはレート水準が定まりにくい展開を予想する。9日に、CP等買入れオペが4,000億円度でオフアされる予定となっている。

<TDB>

2日の3M (1192回債) の入札は、最高落札利回り▲0.1805% (前回債▲1.805%)、平均落札利回り▲0.1875% (前回債▲0.1891%) となった。

来週は9日に6M、10日に3Mの入札が予定されている。

[オープン市場]

	予想レンジ (%)
現先 (on/1w)	▲0.050 ~ 0.000
CP 3M	0.000 ~ 0.010